

1 研究概要

(1) 研究主題

開発的な生徒指導の機能を生かした自己指導能力の育成

(2) 主題設定の理由

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、子ども達には変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性を働かせて、よりよい人生とよりよい社会を築いていくことが期待される。子どもたち一人ひとりが、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮することが重要である。

生徒指導が一人ひとりの子どもの健全な成長を促し、子ども自ら現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を目指すという生徒指導の積極的な意義を踏まえ、学校の教育活動全体を通じ、その一層の充実を図っていくことが必要である。

また、各学校においては、計画的・組織的な取組によって、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスの機能を充実することによって、一人ひとりの子どもが自己実現に関わって必要とされる資質や能力、態度を身に付けられるようにし、よりよい発達を促すことが重要である。

平成30年度函館市の学校教育推進の指針「アプローチ」では、授業を核とした指導の充実を目指すことを視点とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が、子どもの将来における自己実現を可能にする力を育むことを重要課題としている。子どもたちが活躍できる場を設定するとともに、努力したことを認め、賞賛することにより、学ぶ楽しさや成就感を味わうことにつながったり、子どもたちが、学び合いなどの他者と協力して行う活動により、互いの違いを認め合い、互いに支え合ったりする場や機会を意図的・計画的に設定することを達成目標としている。

そうした中、昨年度の教育相談部では、3年次研究の2年次目として、自己指導能力を育成するため、開発的な生徒指導の方法としての代表的なグループアプローチについて、プログラム案を作成・実施してきた。その中で、一単位時間のプログラムとして実践した内容を、さらに改善し、より汎用性を高める必要があること、アセスメントの結果をいかに活用できるかについて研究を深めること、などの課題があげられた。

これらのことから、本研究において、生徒指導の機能が生かされている授業改善への取組を、学校の教育活動全体を通して意図的、計画的に実施することにより、開発的な生徒指導の機能を生かし、自己指導能力の育成を目指すことが必要であると考え、本研究主題を設定した。

(3) 研究目的

子ども一人ひとりに自己指導能力を育成するために、人間関係を形成する力の育成や支持的風土の醸成に向けて、年間を通じた開発的な生徒指導の在り方を明らかにすることにより、各学校の教育活動の充実に資する。

(4) 研究の仮説

学校や学年・学級の実態に合わせて、開発的な生徒指導を意図的・計画的に位置付けて取り組むことで、子どもたちの自己指導能力の育成と支持的風土の醸成を図る指導を充実させることができるであろう。

(5) 研究内容

研究仮説に位置付けられた手立てをさらに具体化し、次のような研究を行うこととした。

【研究内容1】

- ・ 開発的な生徒指導の手法としての代表的なグループアプローチについて、作成した一単位時間の授業プログラムを実施し、その効果等について検討・改善をする。

【研究内容2】

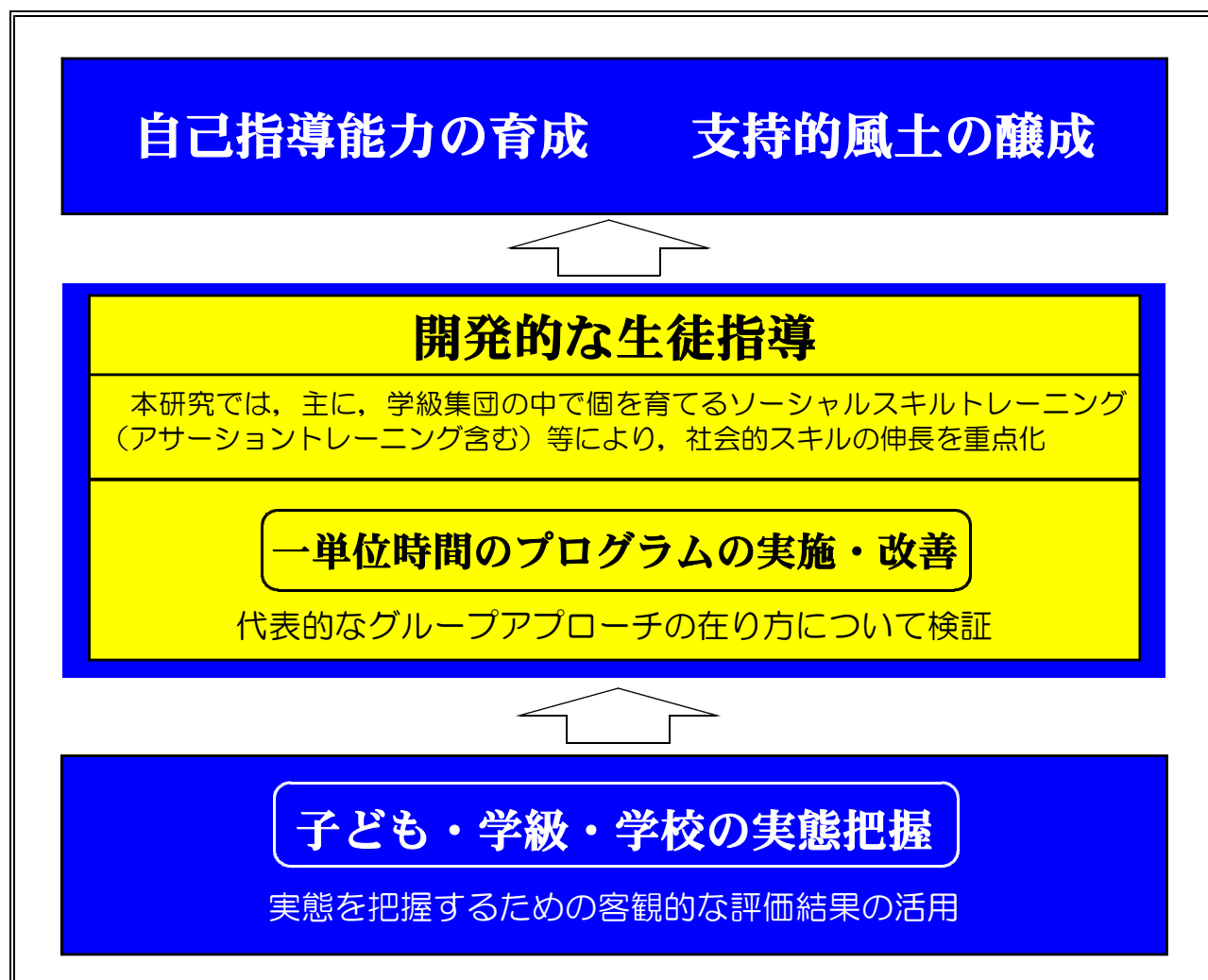
- ・ アセスを計画的に実施し、内容1の一単位時間の授業プログラムをはじめとする、開発的な生徒指導を生かした取組について、個や集団の実態や変容をもとに検証する。

(6) 研究計画

本研究は、3カ年計画で推進していく。

平成28年度	平成29年度	平成30年度
開発的な生徒指導の機能を生かした自己指導能力の育成		
○ 年間プログラムの作成	○ 指導案の作成と検証 ○ 客観的な評価の活用 ○ 道徳教育	○ 研究のまとめ ○ 次年度の研究の方向性と計画

研究の構想図



2 アセスによる児童生徒の客観的な実態把握と評価について

(1) アセスの使い方・活かし方について

○ アセスとは

いじめなどの問題行動や不登校の原因の一つに、子どもたちの抱える背景の多様化が挙げられる。学校適応感尺度「アセス」は、そのように多様な背景をもつ子どもたちの「学校適応感」を測定するために開発された尺度である。言い換えると、子ども本人が感じている「SOS の度合い」を測るものとも言える。

○ アセスの6つの因子

① 生活満足感

生活全体に対して満足や楽しさを感じている程度で、総合的な適応感を示している。

② 教師サポート

担任（教師）の支援があるとか、認められているなど、担任（教師）との関係が良好であると感じている程度を示している。

③ 友人サポート

友達からの支援があるとか、認められているなど、友人関係が良好だと感じている程度を示している。

④ 向社会的スキル

友達への援助や友達との関係をつくるスキルをもっていると感じている程度を示している。

⑤ 非侵害的關係

無視やいじめなど、拒否的・否定的な友達関係がないと感じている程度を示している。

⑥ 学習的適応

学習の方法もわかり、意欲も高いなど、学習が良好だと感じている程度を示している。

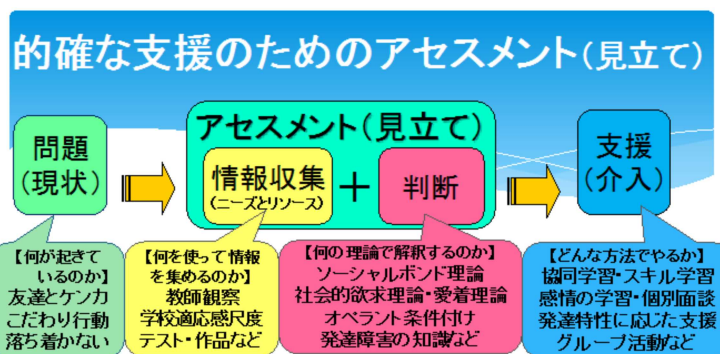
○ アセスの特徴

① 本人の主観的な適応感、とりわけ SOS のサインを出している子に敏感になれる。

② 子どもたちの適応感の全体を、包括的かつ多面的に判断することができ、支援を検討する際のポイントが明確になる。

③ 「担任の先生は、困った時に助けてくれる」と子どもたちの受け止められているのか、子どもとのかかわりを見直すきっかけになる。

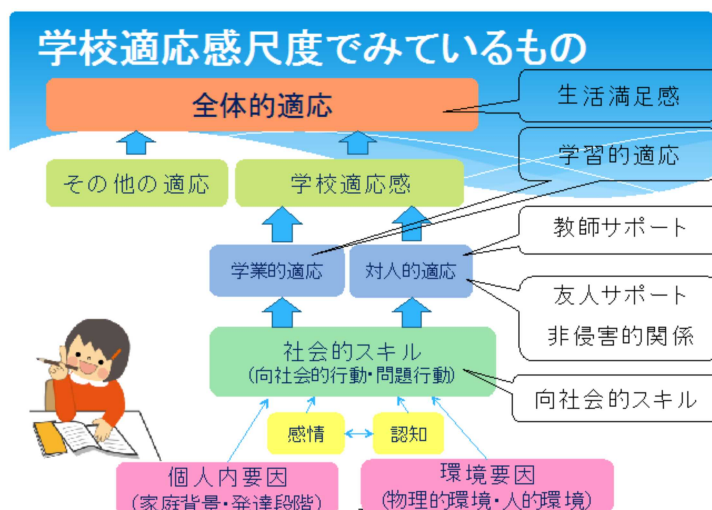
④ 小学生、中学生、高校生を同じ尺度で測定しているので、小中高の連携に活用できる。



- ①問題状況を理解するためにどんな情報が必要か
- ②その情報を判断するためにどんな知識・考え(理論)が必要か
- ③その判断したニーズを満たすためにはどんな支援が必要か

※アセスメントは支援のためのもの (→ 情報収集・分析のみで終わらない。)

※リソース(支援に役立ちそうなもの)もアセスメントする



参考: 大村香子・大竹恵子・松見淳子(2007) 学校適応アセスメントのための三水準モデル構築の試み 教育心理学研究 55,135-151

公益法人 学校教育開発研究所 ホームページより

3 開発的な生徒指導のためのグループワークについて

(1) ソーシャルスキルエデュケーション (SSE) について

○ ソーシャルスキルエデュケーション (SSE) とは

学校で、すべての子どもに、ソーシャルスキルの学習機会を意図的、計画的に提供することによって、ソーシャルスキルの不足から派生する問題を予防し、子どもの社会性の発達に寄与しようと開発された技法が集団SSTである。こうした目的で行われる集団SSTは、心理療法というよりも教育技法であるので、現在では「ソーシャルスキル教育」(SSE)と呼称されることが多い。

(『実践！ソーシャルスキル教育 中学校』より)

「ソーシャルスキルトレーニング (SST)」は定着しつつある用語であり、開発的な生徒指導のための重要な手法の一つであるといえるが、教育現場での「トレーニング」という場合、一面では、教師が(一方的に)「鍛える」「与える」という連想につながるおそれがある。子どもたちが学ぶことによって成長していく教育の現場では、スキルをただ「鍛え」たり「与え」たりすることで身に付けさせるということではなく、集団の機能を生かしながら、子ども自身がその大切さを納得し、内発的な動機付けをもって、自ら取り組んでいくことが大切である。また、このようなアプローチを学校全体で教育活動に意図的・計画的に位置付けて推進することが重要である。その意味で、本研究では、これを「ソーシャルスキルエデュケーション (SSE)」と位置付けて、研究に取り組んだ。

(2) アサーショントレーニング

「主張訓練」と訳される。対人場面で自分の伝えたいことをしっかりと伝えるためのトレーニングである。「断る」「要求する」といった、葛藤場面での自己表現や、「ほめる」「感謝する」「うれしい気持ちを表す」「援助を申し出る」といった他者とのかかわりをより円滑にする社会的行動の獲得を目指す。

(文部科学省 生徒指導提要P109 平成22年3月)

アサーションから学べること

○ 自分の気持ちや考えを、相手に適切な表現で伝える

自分の気持ちや考えに気付く⇒自分と対話する …自己理解

相手の受け取り方に目を向ける⇒相手の立場に立つ…他者理解

自分自身や他者を大切に
する心

○ お互いの気持ちや考えを伝え合うことを通して、より良い人間関係を築く

自分の気持ちや考えを表現することと同様に、相手にも気持ちや考えを表現する権利があり、それを尊重することの大切さに気付く…自他の尊重⇒より良い人間関係の醸成

自分と他者との人間
関係を大切に
する心

よりよい人間関係をはぐくむ「アサーション・トレーニング」指導プログラムの開発に関する調査研究

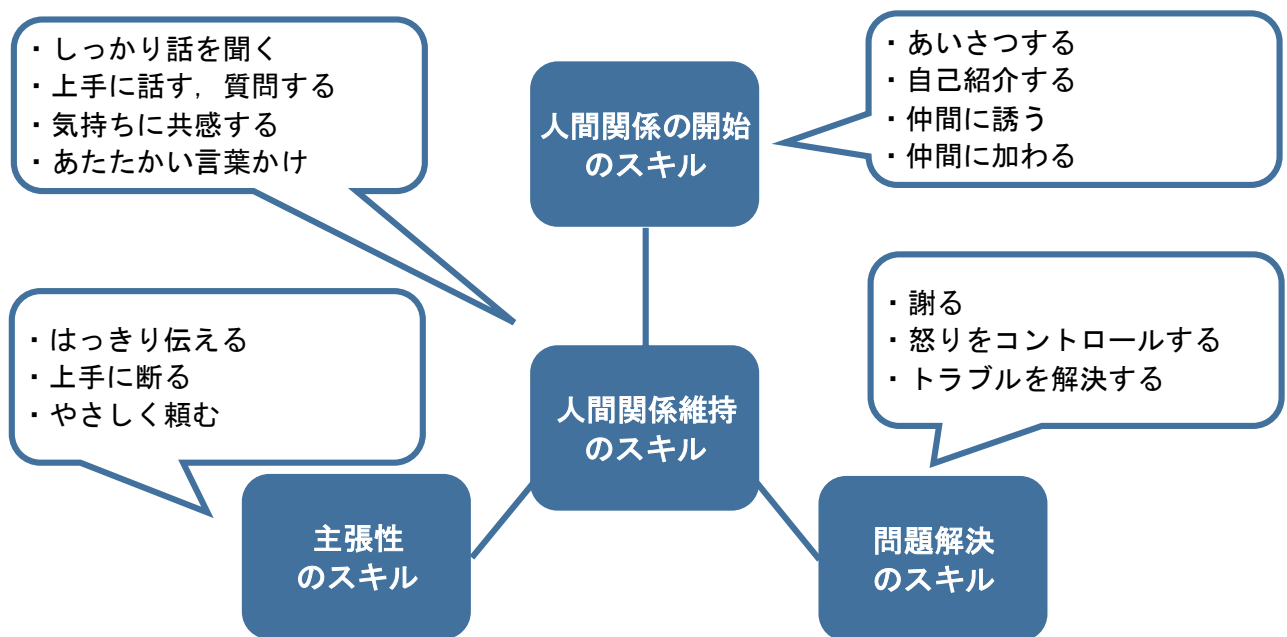
(埼玉県立総合研究センター 平成23年3月)

(3) 本研究での授業実践について

○ 実践の方向性と内容，選定したスキルについて

本研究では，昨年度までの教育相談部の実践を参考にしながら，研究員が実際に一単位時間の授業として実践を行うことで，その効果や改善点等について考察することとした。

授業の実践にあたっては，昨年度に引き続き，「心があたたかくなる言葉かけ（人間関係維持のスキル）」と「アサーション（主張性のスキル）」を選定し，発達段階や児童生徒の実態に応じたプログラムを実践した。

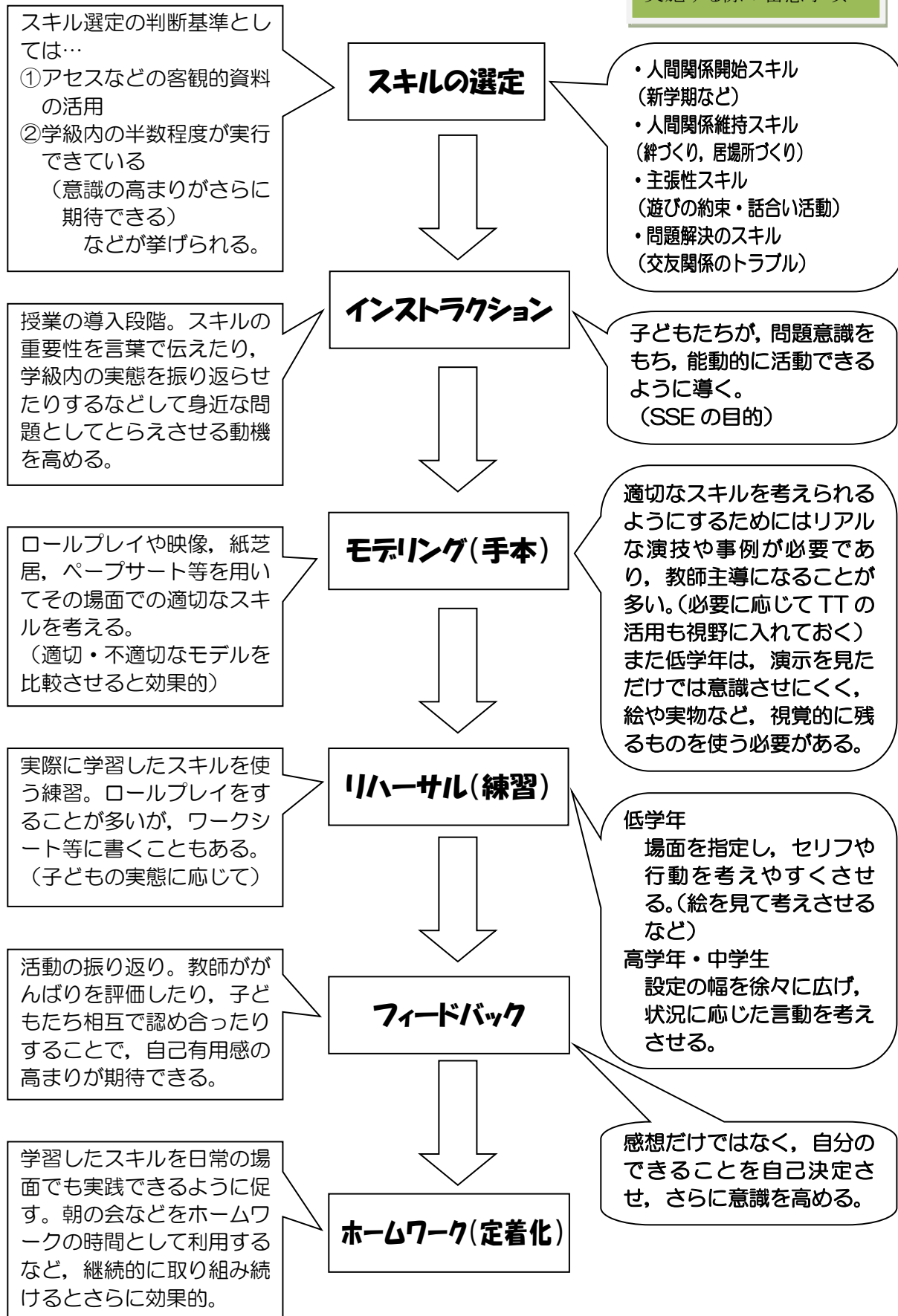


(4) SSEのプログラムづくりおよび実施の流れ

○ SSEのプログラム実施の流れを次ページの図のように構想し，これに基づいて研究員が実際に一単位時間の授業の実践を行うこととした。

【 SSE プログラム実施の流れ 】

実施する際の留意事項



実践例 心が温かくなる言葉かけ

(中学2年生) 授業者 赤川中 磯波

<本時のねらい>

- ・温かい言葉かけは人とのより良い関係づくりに役立つことに気付く。
- ・言葉のかけ方を意識していこうという気持ちを育む。

<本時の活動>

段階	学習活動と子どもの様子	ポイントと留意点
インストラクション	(1)温かい言葉かけについて学習することを知らせる。 ○ これまでクラスの中で見られた、温かい言葉を思い出す。 (ほめられた・心配された・励まされた・感謝された) ㊟ 「温かい言葉かけ」はどんなことに役立つか考えよう。 ㊟ 予想してみよう。 ○ 温かい言葉をかけあうと、クラスはこうなる。 冷たい言葉をかけあうと、クラスはこうなる。	・過去の生徒の言動を積極的に取り上げて、自己存在感を与える。(生徒指導の柱1) ・冷たい言葉も提示する。 (けなす・無視する・がっかりさせる・罵倒する)
モデリング	(2)言葉かけのロールプレイを見て感想を交流する。 <u>ボタンを落としてしまったシチュエーション</u> 2つのパターンを生徒が演じる。 ・冷たいパターン ・温かいパターン ○ 温かい言葉のかけとは「相手の様子+自分の気持ち(感情語)」だと知る。 ○ 相手に近づく、表情や身振り、優しい口調など伝え方にもポイントがあることを知る。	・ロールプレイを見て、なぜ冷たいか、なぜ温かいかについて感想をもつ。 ・相手の様子を理解したうえで言葉かけが大切であることに気づかせる。 ・非言語の部分も同様に。
リハールサル	(3)温かい言葉をかけあったり、考えたりする。(グループ学習) 2つのパターンを生徒が演じる。 ㊟ ・冷たいパターン ・温かいパターン どんな温かい言葉をかけたら良いか考えよう。 ① 文化祭合唱の練習中、口を開けず歌えない人に。 ② 班の発表会の担当資料を忘れた人に。 ③ 期末テストで目標点数をとれなかった人に。 ④ 友人とケンカし、落ちこんでいる人に。 ⑤ 授業で指名され、間違えた答えを発表した人に。 ⑥ 中体連で思うような結果を出せなかった人に。 ○ それぞれのグループで考え、全体で交流する。	・受け手・話し手に感想を聞く。 ・グループ内で温かい言葉をつくることで共感的な人間関係を育成する。 (生徒指導の柱2) ・相手の様子を理解することの大切さを再度確認させる。
フィードバック	(4)今日の授業で身についたことと、これからの生活に活かしていきたいことを振り返る。 ㊟ 温かい言葉は人とのより良い関係づくりに役立つ。 ○ 今日の授業で学んだことを記入し、これからの学校生活で言葉のかけ方を意識していこうという気持ちもつ。	・何が身に付いたかを明確にして振り返りをさせ、自己決定の場を与える。(生徒指導の柱3) ・生徒の意見を取り上げ、まとめる。

「温かい言葉はどんなことに役立つか考えよう」

() 年 () 組 名前 ()

○相手を思いやる言葉かけの例

- ① () 「～できて、すごいね。」
② () 「きつそうだね、大丈夫？手伝おうか。」
③ () 「～だけど、きつとうまくいくよ。」
④ () 「～してくれて、ありがとう。」



【予想してみよう】

温かい言葉をかけ合うと、クラスはこうなる	冷たい言葉をかけ合うと、クラスはこうなる

演じてみた感想

温かい言葉のかけのポイント

+

まとめ



○学習を終えて～今日の授業で身についたことと、これからの生活に活かしていきたいことを書こう。

場面：体育の時間

体育で、リレーの練習をしている。最後のグループ対抗リレーでAさんがバトンを落としてしまったので、それまでせっかく1位だったチームが最下位になってしまった。Aさんは運動が苦手だが、練習は頑張っていた。リレーのあと、Aさんは元気がない。

役割：A～リレーで失敗した役 ※どんな気持ちがするか表情で表す（1人） Aに言葉をかける役（4人）

ロールプレイ① 強い口調で（リレーで失敗したAにきつくあたる）

()「あーあ、最下位か。なんでバトン落としたんだ！」

A $\lceil \cdot \rceil$

()「お前（あんた）のせいで負けたんだけど！」

A $\lceil \cdot \rceil$

()「だいたい、いっつも落とすし！」

A $\lceil \cdot \rceil$

() 「もっと、ちゃんと練習して！」

6人いる場合・・・ひそひそ話す役をたす

ロールプレイ②温かい言葉かけのポイントを使って言葉をかける。

(近づく・相手を見る。やさしい言葉をかける)

() (近づく)「元気ないね、大丈夫？」

A | |

()「残念だったね、ドンマイ！」

A 「 」

() 「運動苦手なのに、練習頑張ってたよ。すごいと思うよ。」

A 「 」

() 「今度頑張ろうよ、一緒に練習しよう」

6人いる場合・・・優しく寄り添う役をたす

【温かい言葉を考えよう 言ってみよう】

班の シチュエーション	どんな言葉をかけますか？
----------------	--------------

発表時：司会者「 班は
葉かけを考えました。

のシチュエーションで、このような言

実践例 心が温かくなる言葉かけ

(中学3年生) 授業者 湯川中 長村

学級活動の目標

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。
(2) 適応と成長及び健康安全 オ) 望ましい人間関係の確立

<本時のねらい>

- ・温かい言葉かけは人とのより良い関係づくりに役立つことに気付く。
- ・言葉のかけ方を意識していこうという気持ちを育む。

<本時の活動>

段階	学習活動と子どもの様子	ポイントと留意点
インストラクション	(1) 温かい言葉かけについて学習することを知る。 ○今年度の修学旅行や校内体育大会後に書いた作文の中から温かい言葉や表現を紹介する。 (ほめられた・心配された・励まされた・感謝された) ㊦ 「温かい言葉かけ」はどんなことに役立つか考えよう。 ㊧ 予想してみよう。 ○ 温かい言葉をかけあうと、学級の雰囲気はこうなる。冷たい言葉をかけあうと、学級の雰囲気はこうなる。	○過去の生徒の言動やそのとき感じた思いを積極的に取り上げて、自己存在感を与える。 (生徒指導の柱1) ○冷たい言葉も提示する。 (けなす・無視する・がっかりさせる・罵倒する)
モデリング	(2) 言葉かけのロールプレイを見て感想を交流する。 バトンを落としてしまったシチュエーション 2つのパターンを生徒が演じる。 ・冷たいパターン ・温かいパターン ○ 温かい言葉のかけとは「相手の様子＋自分の気持ち(感情語)」だと知る。 ○ 相手に近付く、表情や身振り、優しい口調など、伝え方にもポイントがあることを知る。	○ロールプレイを見て、コミュニケーションの良かった点や問題点、そのときの気持ちについて比較させる。 ○(出来事・行動)に温かい言葉を合わせることで、相手を理解することに繋がることを確認する。
リハーサル	(3) 温かい言葉をかけあったり、考えたりする。(グループ学習) 2つのパターンを生徒が演じる。 ㊦ ・冷たいパターン ・温かいパターン どんな温かい言葉をかけたら良いか考えよう。 (集団活動の中での一場面) ① 化祭合唱の練習中、口を開けず、大きな声で歌えない人に。(励) ② 朝の挨拶運動を行うため、毎日朝早く登校している友人に。(ほ・感) ③ 学年の団体種目の練習中に怪我をした友人に。(心・励) ④ 学級の友人とケンカをし、落ちこんでいる人に。(心・励) ⑤ 校内体育大会で、仲間のために一生懸命応援していた友人に。(ほ・感) ○ それぞれのグループで考え、全体で交流する。	○グループ内で温かい言葉をつくり、実際に体験させることで共感的な人間関係を育成する。 (生徒指導の柱2) ○最初に確認した、ほめる・心配する・励ます・感謝するが含まれる場面設定にする。 ○相手の様子を理解することの大切さを再度確認させる。
フィードバック	(4) 今日の授業で身につけたことと、これからの生活に活かしていきたいことを振り返る。 ㊧ 温かい言葉は人とのより良い関係づくりに役立つ。 ○ 今日の授業で学んだことを記入し、これからの学校生活で言葉のかけ方を意識していこうという気持ちもつ。	○何が身に付いたかを明確にして振り返りをさせ、自己決定の場を与える。 (生徒指導の柱3) ○頑張って取り組んだことを認めてもらおうと嬉しくなり、それがより良い関係づくりに繋がることを理解させる。

「温かい言葉はどんなことに役立つか考えよう」

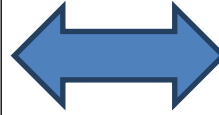
() 年 () 組 名前 ()

温かい言葉

冷たい言葉

【相手を思いやる言葉かけの例】

- () 「～できて、すごいね。」
- () 「きつそうだね、大丈夫？手伝おうか。」
- () 「～だけど、きつとうまくいくよ。」
- () 「～してくれて、ありがとう。」



- ()
- ()
- ()
- ()

【予想してみよう】 学級の雰囲気はどうかと思いますか？

温かい言葉をかけ合うと	冷たい言葉をかけ合うと

【温かい言葉 ver. と冷たい言葉 ver.】の両方を演じてみた感想

温かい言葉のかけのポイント

+

まとめ



○学習を終えて～今日の授業で身に付いたことと、これからの生活に活かしていきたいことを書こう。

場面：体育の時間

体育で、リレーの練習をしている。最後のグループ対抗リレーでAさんがバトンを落としてしまったので、それまでせっかく1位だったチームが最下位になってしまった。Aさんは運動が苦手だが、練習は頑張っていた。リレーのあと、Aさんは元気がない。

役割：A～リレーで失敗した役 ※どんな気持ちができるか表情で表す（1人） Aに言葉をかける役（4人）

ロールプレイ① 強い口調で（リレーで失敗したAにきつくあたる）

() 「あーあ、最下位か。なんでバトン落としたんだ！」

A 「・・・・・・・・・・」

() 「お前（あんた）のせいで負けたんだけど！」

A 「・・・・・・・・・・」

() 「だいたい、いつも落とすし！」

A 「・・・・・・・・・・」

() 「もっと、ちゃんと練習して！」

6人いる場合・・・ひそひそ話す役をたす

ロールプレイ② 温かい言葉かけのポイントを使って言葉をかける。

(近づく・相手を見る。やさしい言葉をかける)

((近づく) 「元気ないね、大丈夫？」

A 「・・・・・・・・・・」

(「残念だったね、ドンマイ！」

A 「・・・・・・・・・・」

(「運動苦手なのに、練習頑張ってたよ。すごいと思うよ。」

A 「・・・・・・・・・・」

(「今度頑張ろうよ、一緒に練習しよう」

6人いる場合・・・優しく寄り添う役をたす

相手の様子＋自分の気持ち

【温かい言葉を考えよう 言ってみよう】

班のシチュエーション	どんな言葉をかけますか？
------------	--------------

発表時：司会者「 班は のシチュエーションで、このような言葉かけを考えました。

学年の団体種目の練習中に、怪我をしてしまった友人に。

朝の挨拶運動を行うため、毎日朝早く登校している友人に。

文化祭の合唱練習中、口を開けず大きな声で歌えない人に。

中体連で、仲間のために一生懸命声を出し、応援していた友人に。

学級の友人と喧嘩をしてしまい、落ち込んでいる友人に。

実践例 道徳（アサーション・トレーニングの要素を取り入れて）

（中学2年生）授業者 巴中 高野

1 主題名 心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う【B－8 友情，信頼】

2 教材名 「友達からのアドバイス」（自作教材）

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

中学校学習指導要領解説道徳編で示されている内容項目は、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。」である。真の友情は、相互に変わらない信頼があって成り立つものであり、相手に対する敬愛の念がその根底にある。それは、相手の人間的な成長と幸せを願い、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという平等で対等な関係である。分かち合い、高め合い、心からの友情や友情の尊さについて理解を深め、自分を取り囲む友達との友情をより一層大切にする態度を育てることが大切である。

小学校の段階では、特に高学年で互いに信頼し学び合って友情を深めるよさについて学習している。中学校の段階では、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。しかし、学年が上がるにつれて、時には相手に無批判に同調し、自分が傷付くことを恐れる余り、最初から一定の距離をとった関係しかもたないなど複雑な思いにとらわれる場合も出てくる。

（2）生徒の実態について

心ない男子からの言葉や周囲からの強い口調を恐れ、自信をもって表現することに抵抗をもつ生徒が多く、学級として極めておとなしい印象である。人間関係は良好なものの、「本当の友達って何？」と投げかけると真剣に悩む女子生徒の姿が容易に想像できる。

（3）教材について

本教材は、実話をもとにしたよくある話である。本当の友達であれば、正直に伝えるべきか、それとも友達だからこそ伝えないべきかで葛藤する教材である。子どもたちの考えを、導入で考えたことと比較しながら、真の友達について考えさせ、アサーションの要素を取り入れながら、モラルスキルトレーニングとして活用していく。

（4）アサーションの要素について

アサーションとは「自分の意見・考え・気持ち・相手への希望などを伝えたいときは、なるべく率直に正直に、しかもその場にあった適切な方法で伝えようとする自己表現」のことである。「その場にあった適切な方法」とは、「自他相互尊重の精神」でコミュニケーションを行うことと言い換えることができる。表現する自分を大切にすると同時に、コミュニケーションする相手のいうことにも耳を傾け、意見が違ったり、葛藤が生じたら、ごり押ししたり、どちらかが一方的に我慢を強いられたりするのではなく、互いの自己表現を認め受け止めることである。

今回の教材では、意見の違いを忌避するでもなく争うでもなく、お互いにコミュニケーションすることで、よりよい人間関係を築いてもいけるということを子どもたちに実感させる。具体的には①人の意見を聞く ②「でも」「だけど」などで話し始めるのはやめる という視点を意識させる。

4 本時について

(1) 本時のねらい

友達として相手の人間的な成長と幸せを願い、平等で対等な関係を築いていくための道徳的実践意欲と態度を育む。

(2) 本時の展開

	学習内容と主な発問（・予想される児童生徒の反応）	・留意点 ●評価の視点(方法)
導入	1 どんな人（存在）を友達というのか ・お互いに何でも言い合える ・本音でぶつかり合える ・けんかしてもすぐに仲良くなれる ・互いを理解し、共に磨き合える ・嘘をつかない 2 課題の提示 友達への伝え方を考える。	・自分にとって都合のよい人を友達という傾向がある。子どもたちからの意見を書き残し、テーマ発問のときに使う。
展開	3 教材を範読する。 4 教材のあらすじを整理する。 登場人物（真帆・さやか・理沙） 2年生になって同じクラスになり意気投合→1年の時の理沙からさやかのことを聞く→買い物・互いの家を行き来する→理沙から伝えられる 5 自分の考えをワークシートに記入し、グループで話し合う。 真帆はこのことをさやかに言うべきなのだろうか。 どのような思いから、そのような行動をするか。 言う ・自分はそう思っていないから。 ・友達だから伝える。 言わない ・ただの噂話や妬みだから。伝える意味がない。 ・かわいそうだから。 6 本当の友達とはどういう存在かを考える。 本当の友達って何？ △相手の人間的な成長と幸せを願う。→自己犠牲と違う ○平等で対等な関係を築く。 ○互いに励まし合い、高め合う。 →◎自分もきちんと表現でき、相手も尊重する。 7 アサーションの要素を取り入れた、モラルスキルトレーニングを行う。 理沙から告げられたとき、理沙とさやかの友達として真帆はどのように答えればよいのだろうか。 【前提条件】 ◎理沙もさやかも真帆にとっては友達 ◎真帆はさやかが男子の前で可愛子ぶっているとか調子にのっているとは思っていない。 【アサーションの要素】 ①人の意見を聞く ②「でも」「だけど」などで話し始めるのはやめる	・どんどん仲良くなっていくことを確認する。 ● 自分だったらと考える。（ワークシート・発表） ・グループで自分の考えを交流し、多面的・多角的な見方を受け止める。 ・ワークシートに書いたことをもとに、友達として、傷付けることを覚悟で正直に言うか、隠すのか。真の友達としての姿勢を問う。 ・導入で話した友達の姿は、自分にとって都合のよい人間関係を言っていたことを浮かび上がらせる。 ● 多面的・多角的見方（ワークシート・発表） 《アサーションの特質》 ・なるべく率直に正直に ・その場にあった適切な方法で ・自己表現 ・伝えたい
終末	8 今日の授業を通して学んだことを書く。	● 自分自身との関わり ● 多面的・多角的見方

(3) 授業の評価

- ・教材や他者の考えに触れ、多面的・多角的見方へと発展しているか。
- ・本時のねらいである道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

友達からのアドバイス

2年生になって同じクラスになった真帆とさやかは、共通の趣味からすぐに仲良くなった。2年生になって2週間がたった頃、真帆は1年生の時に友達になった理沙から



さやか



真帆

「さやかには気を付けなよ。去年、友達の悪口を SNS で書いていたのよ。」
真帆は

「心配してくれてありがとう。気を付けるよ。」と返事をした。

その後何事もなく3ヶ月が過ぎた。真帆とさやかは、休みの日には2人で出かけたり、互いの家に行ったりするなど、友達と言えるほど仲がよくなっていた。そんなある日、真帆は理沙から

「最近どう？ さやかはみんなから”男子の前で可愛子ぶって、調子にのっている”って言われているよ。真帆も近くにいると言われちゃうよ。」
と突然話しかけてきた。私のことを心配そうに見ていた。



理沙

《今日の POINT》
「友達からのアドバイス」の教材から、よりよい生き方の考えを深める。





名前





さやか



真帆



理沙

4 研究の成果と課題

本年度、次のような成果と課題があげられた。

【研究内容1】

- 開発的な生徒指導の手法としての代表的なグループアプローチについて、作成した一単位時間の授業プログラムを実施し、その効果等について検討・改善をする。

〈成果〉

- ・6月に赤川中学校、7月に湯川中学校でそれぞれSSE（人間関係維持スキルや主張性スキルの獲得を目指して）の授業を行い、2年間をかけて、小学校・中学校のどの学年においても、グループアプローチが支持的風土を築くために効果的であることを確認することができた。
- ・グループアプローチの場面設定において、発達の段階に応じた事例を意図的に授業に取り入れた。授業を通して、子どもたち一人ひとりのソーシャルスキルが向上し、実生活に生きる自己指導能力の育成につながることを確認することができた。
- ・冬季研修会において「アサーション・トレーニングの実践」の研修を実施したことで、より効果的なアサーション・トレーニングの方法を広めることができた。
- ・道徳の授業において、道徳的価値の理解を深める学習展開で、アサーション・トレーニングを取り入れることで、道徳的実践意欲と態度をより育むことに有効であることが確認できた。また、道徳的心情を深めることにより、アサーション・トレーニングの意義を理解することにもつながり、より効果的となることが確認できた。

〈課題〉

- ・昨年度から今年度にかけて、小・中学校の各発達の段階における授業プログラム例を提示し、各学校で活用できるように、指導案やワークシート等の整理や、授業実践後の変容等を明確に提示することで、汎用性がより深まっていくと考える。

【研究内容2】

- アセスを計画的に実施し、内容1の一単位時間の授業プログラムをはじめとする、開発的な生徒指導を生かした取組について、個や集団の実態や変容をもとに検証する。

〈成果〉

- ・小学校中学年以上の学級においてアセスを実施することで、子ども・学級・学校等の実態をより正確に見取ることができ、その結果に基づいて指導を行うことで、自己指導能力の育成につなげることができた。
- ・アセスを5月（第一回目）と12月（第二回目）に実施し、子どもの実態を捉え、変容を検証したことにより、アセスの結果（第一回目）を受けた教師によるアプローチの効果が明確になった。
- ・「アセスの使い方・活かし方」の研修を1月に実施したことで、より効果的なアセスメントの仕方を広めることができた。

〈課題〉

- ・アセスメントの実施や各グループアプローチを年間計画にどのように位置付けるかについて、学校が検討する際の参考にできるような汎用性の高い年間プログラム案を検討していく必要がある。

3か年計画において推進された研究を通して、次のような成果と課題があげられた。

〈成果〉

- ・代表的なグループアプローチの手法について理解を深め、学年ごとの年間プログラムを実際に作成することで、様々な活動とグループワークの手法との関連を考察することができた。
- ・SSEの中で主に人間関係維持スキルや主張性スキルの獲得を目指して、汎用性を意識した指導案づくりと授業等の実践を通し、どの発達段階でも同じねらいでのグループアプローチが支持的風土を築くために効果的であることを再確認できた。
- ・グループアプローチに継続的に取り組み、子どもにフィードバックしたり、その経過を参観日や学級通信などを通して家庭に広めたりすることで、より効果が得られることが確認できた。
- ・アセスやQ-Uによる定期的・継続的な児童生徒の実態把握、客観的な資料が校内での指導の方針や方向性を模索するために有用であることが分かった。

〈課題〉

- ・学校により子どもたちの実態は大きく違うため、実際に活用するためには年間プログラムを改善し、提示する必要がある。さらに、カリキュラム・マネジメントの視点から検討する際の参考にできるよう、汎用性をさらに高めることも重要である。
- ・学校全体で取り組むための校内研修や生徒指導交流会の持ち方の工夫なども示すことにより、各学校で共通理解を図りながら指導を推進できるようにしていく必要がある。
- ・アセスメントの結果は、そのままグループアプローチの取組に結び付けられるわけではないが、身に付けさせたいスキルの選定などの手段として、いかに活用できるかについて研究を深める必要がある。

【参考文献・資料】

- ・生徒指導提要 平成22年3月（文部科学省）
- ・実践！ソーシャルスキル教育 小学校・中学校（図書文化）
- ・函館市南北海道教育センター研究紀要175号
- ・よりよい人間関係をはぐくむ「アサーション・トレーニング」指導プログラムの開発に関する調査研究（埼玉県立総合研究センター 平成23年3月）
- ・クラスが変わる 子どものソーシャルスキル指導法（ナツメ社 2014）
- ・学校におけるSST実践ガイド 子どもの対人スキル指導（金剛出版 2006）
- ・アサーショントレーニングー自尊感情を持って自己を表現できるための30のポイントー（黎明出版 2015）
- ・中学生・高校生のためのソーシャルスキルトレーニング（明治図書 2015）
- ・「アセスの使い方・活かし方」（ほんの森出版 2012）

〔研究担当者〕

【教育相談部】平成30年度研究員

村 田 恵 介（函館市立亀田小学校教諭）	阿 曾 優 吾（函館市立桔梗中学校教諭）
橋 田 大 輔（函館市立湯川小学校教諭）	高 野 克（函館市立巴中学校教諭）
長 村 幸 浩（函館市立湯川中学校教諭）	磯 波 理 恵（函館市立赤川中学校教諭）

【指導主事】

佐 藤 大 輔
酒 井 光 史
辰 巳 哲 治
小 林 郁
中 村 健太郎